



会報

札幌くらぶ

2020年 9月 第90号

編集・発行／札幌くらぶ 〒064-0931 札幌市中央区中島公園 1-15 札幌事務局気付
ホームページ <http://sakkyoclub.net/sakkyoclub/>

第29回札幌くらぶサロン

コロナ禍の中での開催（4月19日の延期公演）

7月26日、いつもと同じ豊平館ではあるが、参加者は皆マスクを着用している。正面入口で両手を消毒した後に検温を実施、受付ではフェイスシールドまで着用した会計と手続きを済ませ、自分でプログラムを一枚取って好きな位置に着席する。

楽しみにしていた第1部の調



メンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲全曲を暗譜で演奏

律師の川岸秀樹さんのお話はまずピアノの歴史や構造の話から始まった。日本のオケの基準ピッチ442Hzと世界のオケのピッチを教えていただいた後にアメリカのオケが使っている440Hzとの2Hzの違いの聴き比べを

実際にやった。違いは確かに感じられ、同時に音を出すと狂っている気持ち悪い響きとなって聞こえてきた。それから調律の整調・整音・平均律について、満足した演奏ができるようにピアニストの要望に全て従う心がけなど色々と教えていただいた。最後にオルゴールを使ってピアノが大きな音の出る構造の秘密を確認し、倍音を聴き取る耳のトレーニングをしてもらい、実演の多いとても分かりやすいお話だった。

続いて、札幌応援団の札幌くらぶがこの危機に何かできないか？と始まった札幌支援金の贈呈式が行われた。札幌くらぶ会長の上田文雄さんから札幌専務理事の鳥居和比佐さんに会員から集められた支援金793000円の目録が「札幌カンパレ！」の掛け声と共に渡された。上田会長から団員とファンとの関係を大切にしていたきたいとい

う応援メッセージが添えられ、鳥居専務理事からそれに返すように札幌の現状とこれからの活動について、事務局長やコンマスの音楽活動に対する熱い思いなども伝えられた。

私自身2月以来の久しぶりの生演奏となった第2部のミニコンサートは、グリーグのヴァイオリンソナタ第3番全曲とメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲全曲である。大曲2曲「聴いたぞー！」「感動したぞー！」と叫びたくなる満足感で高木優樹さんのヴァイオリンも佐藤奈都美さんのピアノも、ものすごく良く鳴っていた。お二人とも演奏中もずっとマスクを着用していたので、息苦しいのはもちろんの事、演奏の息を合わせるのも表情が分かりづらく大変だったと思う。プロに対して失礼かもしれないが超絶技巧のメンコンを高木さんは暗譜で弾いて



鍵盤のハンマーをはずして説明する川岸さん



座席の間隔を広くあけて

担当／上野文博

いた。改めて札幌の若手は皆すごいなと感じる。グリーグの第2楽章の聴きやすいメロディはそれを挟むブラームス並みの重厚な楽章により際立って美しかった。アンコールのバッハもプログラムの自然な流れで立派なリサイタルとなって終演したが、参加人数が少なかつたのもっと大勢の人に聴いてほしかったな。コロナ禍で「ブラヴォー！」と叫びたい気持ちを抑え、それに代わる盛大な拍手「8888」が二人に送られた事は言うまでもない。本来ならばこの後に第3部の交流パーティーが始まるのだが今回はガマン。演奏者を囲んで久しぶりに再会した仲間と感動を分かち合えなかつたのが残念。全くコロナはこんなくしょいなやつだ！

新しい札幌が奏でる音楽の素晴らしさを



この四月より市川の後任として事務局長となりました多賀と申します。「札幌くらぶ」の皆様にはくらぶ発足以来たくさんのご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

職をお引き受けした時にも大変なことになったと思いましたが、まさか新型コロナウイルスという世界を揺るがす事態が訪れようとは思ってもならず、右も左も分か

らないままスタッフに助けられて五か月があつたという間に過ぎてしまいました。この様な困難な状況から出発したことで、多くの方々に札幌が愛され支えられているというこ

とを、より実感することができました。三月まで演奏する側にいた身としては、事務局の仕事の多さと煩雑さに驚嘆する機会となり、改めて彼らにも感謝する日々です。

新型コロナウイルスの影響で社会全体が弱っています。いつの時代も実はそうなのかも知れませんが、この様な時だからこそ、社会を構成するそれぞれの

人が力を合わせて社会を元気にしていかなければいけないと思います。活動休止によりこれまで皆様のお力にほとんどなれなかつた札幌は、これからが恩返しだと思っています。演奏できなかった期間の思いを胸に、これまでとはまた違った演奏を皆様にお届けすることができると

確信しておりますし、皆様には新しい札幌の奏でる音楽の素晴らしさを、是非楽しんでいただきたいと思っています。北海道が元気になるために札幌に何ができるのか。その答えを探しながら歩み続けて参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

札幌交響楽団事務局長

多賀 登

札幌には2009年7月に入団しました。最初の3年間は総務部職員として、入金処理を担当しながら、50周年事業、主に記念誌の作成とヨーロッパ記念公演に携わりました。記念誌に関わる

今できることを精いっぱい

思い出されます。楽団員・スタッフ・事務局併せて93人、そのバックには倍以上の家族がい

ます。『どうしよう、何とかならないか』の場面で手を差し伸べてくださる方々がたくさんいら

とができ、先人の皆さまがいかに札幌を愛していたか、また今もいかに愛されているかを知ることができました。一方でヨーロッパ公演では、開催都市と現地主催者の決定、

地の方に歓迎される演奏会を作ることには難しいのではと思う毎日でした。3・11の夜、尾高さんのマネージャーを務めているイギリスの音楽事務所から直接

つしやること、私たちはその手

ポスターを作成して

寄付も励ましも沢山いただきました

このコロナの中でコンサートができる日常が本当に遠いものになってしまっているいろいろな事を考えさせられる自粛期間でした。

事務局やスタッフ、ライブラリアンなど私達の演奏を支えてくださる方々はコンサートの中止や延期などにより途方も無い沢山のことを考えて苦渋の決断の連続だったと思いま

す。団員も自分たちにできることを模索し皆で企画を持ち寄りたりして少人数でのアンサンブル配信やリモート演奏、学生向

けのレッスン動画の撮影などを行いました。

札幌にはこのように人前での演奏が出来なくても皆で前向きに発信していこうという考えの方がたくさんいて、私も諦めな

いぞ！と勇気をもらいました。オンラインでの寄付、クラウドファンディングが始まり札幌を応援して下さっている人が本当にたくさんいる事を知ることが出来ました。インターネッ

トで支援を募りあつという間に



を素直に受けて、自分たちができることを精いっぱいすること

に尽きるのかなと思います。山の個人の趣味は登山です。山の

中で足元・手許に迷うとき、必ず先人が付けてくれたとつかかりが見つかります。

札幌交響楽団総務営業部長

庄司寿子



2019年10月にパーメルトさん、宮下さんと石狩の浜に行った時の写真です。首席指揮者パーメルトは、就任以来何回も来札していますが、ホールとホテルとの移動だけで、札幌、北海道を知る機会がありません。スイス出身の彼が北海道の海を見ることができて、とても喜んでくれました。どうかお会いになられたら、積極的にお声掛けをお願いします。

沢山の寄付が集まり私はとてもびっくりしました。団員の中で、このオンライン寄付についてもっと知ってもらうためにポスターなどがあれば良いんじゃないか？との声を聞いて、私は事務局の方々に協力をさせていただいてポスターを作成し楽器店、コンサートホール、馴染みのお店など道内外たくさんの方に配架して頂くことが出来ました。コンサートマスターの田島さんは自分で道内各地を回ってこのポスターをたくさん配って下さったそうです。私も「札幌さん、応援してるよ！」と心優しい言葉を色々なところから頂き、私は道内外を問わずたくさんの方から本当に愛されているオーケストラなんだとさらに自分の仕事に誇りを持ちました。

8月から待ちに待った演奏会が再開されました。自分も舞台上上がった時、ブランクから緊張を思い出しましたがこの場所に戻って来られて良かったと思えました。お客様も本当に喜んでくださって私たちも嬉しかったです。今後もお客様に音楽を届けられるよう頑張っていきたいと思えます。これからも宜しくお願いいたします！

札幌トランプット副首席奏者

鶴田麻記

札幌配信プロジェクト

生演奏に替わるお客様へのメッセージ

演奏会のキャンセルが相次ぎ、打ちひしがれていた3月初旬、中村菜見子(Vn)さん、飯村真理(Vn)さんと今出来ることは何かを考えていて、YouTubeで札幌の演奏を配信したいと事務局に相談しました。配信プロジェクトは札幌の演奏を待つていて下さるお客様へメッセージとなり、演奏家として何も出来ないもどかしさを少しでも忘れさせてくれる時間となりました。この期間の想いを、中村さん、飯村さんと対談しました。



北星学園大学チャペルでグリーク配信

中村さん(以下:中) 定期が無くなるなんて創設以来無かったから、せめて定期で予定していたロビコンを配信できないか、事務局の方と手探りの状態で進めたよね。

飯: 配信第1弾のグリークを聞いてすごく感動。既に演奏できる機会が無くなっていったから気持ち溜まっていたのかな、演奏にすごくパワーを感じました!

中: その後 STAYHOME の中、私は You Raise Me Up の演奏動画を作りました。(共演: Vn 飯村さん、Pf 永沼さん) 人に会えなくなると、お客さんや団員さん、みんな元気か気になっていたり、オケの状況もどうなっ

ているのか不安で…。この曲はもともと好きな曲で、歌詞に励まされるんです! 誰もが会いたい人に会えない状況だったけど、共に支え合い、寄り添いながら、穏やかに時を過ごしたいという気持ちを込めました。真理さんは Morgan(R. Strauss) を選曲したのは理由がありますか?

飯: Morgan はもともと大好きな曲。3・11の直後にあるイギリスの歌手が「いま日本は大変な状況だけど、復興するパワーのある国だし、明るい未来があるから大丈夫」と言ってくれたのを思い出したの。今回と重なる部分があり Morgan を選びました。(共演: Cl 白子さん、Hp 高野さん)

新型コロナウイルス! 危機を乗り越える札幌支援寄付

報告と御礼

新型コロナは文化芸術分野の諸活動を直撃し、3月以来私たちは愛する札幌の演奏に触れられない日々が続きました。5ヶ月間、聴衆に音楽を届けられなかった楽員の方々にしても耐え難い日々であったに違いありません。8月から「密回避」を探りながら演奏再開となったものの、この間札幌は2億数千円もの欠損が生じたと言います。札幌存亡の危機との想いで、会員に札幌への寄付を提案しました。札幌がクラウドファンディ

ング(CF)を実施する最中でしたが、札幌応援団として多様なサポート活動の一つとしての提案でした。その結果、支援金793000円の募金を得ることができ、7月26日第29回札幌くらぶサロンの席で贈呈させていただきました。会員の皆さまに、ここに報告し感謝を申し上げます。

2020年7月7日

札幌くらぶ会長 上田文雄

札幌くらぶ運営スタッフ一同



鳥居和比佐札幌専務理事と上田文雄会長

札幌での素晴らしい演奏に感謝します!



ヴァイオリン奏者 合田有里さん 5月31日付退団

「短い期間でしたが、大変お世話になりました。ありがとうございました」



フルート首席奏者 高橋聖純さん 3月31日付退団

「みなさまには感謝の言葉しかありません」

公演再開に向けた

テストコンサートに参加して

7月3日(金)に開催されるテストコンサートの連絡を札幌文化芸術劇場から6月18日に受けた。何気なく申し込んでみたが、以前応募した時には抽選に外れたので、今回も期待はしていなかったし、忘れてもいた。ところが6月26日になって思いがけず、当選の通知を受けた。早速オンラインで発券してもらい、出かけることにした。

当日(7月3日)は開演ギリギリに行ったこともあって、人影はまばらであった。まず、消毒液で手指を消毒、体温測定センサーで測定、無事通過してチケットのもぎりも自分で行い、半券を回収箱に投入して入場、感染対策としてはまあ普通という気がした。

公演が始まる前に館長から説明があつて、「今日の来場者は600人を越える応募者の中から当選した1000人余で、6分の1の強運の方々です」とのこと、シャープのマスクに続く強運であつたことに感謝!であつた。

コンサートはプログラムによると2部形式、第1部はソプラ

ノの川島沙耶、ピアノの福由樹子、フルートの按田佳央理の3人で少しハスキー気味の川島さんの歌声とともに進められたが、曲とともに背景に映し出されるプロジェクトションマップピグはきれいで、特に福由樹子作曲の「深く鎮める雅の森」のは阿寒の森の中にいると思われ

る絵であつた。ピアノソロもフルートソロにも聴き惚れ、全7曲はボリユームたっぷりであつた。

第2部は、ガラッと雰囲気を変え、河野祐亮ピアノトリオのジャズである。ピアノ河野祐亮、ベース座小田諒一、ドラムス木下晋之介。At the End of The Day はじめ全5曲(アンコールを含む)は満足のいくもので、開演時間を20分近くオーバーする熱演であつた。

このテストコンサートでは、これからの公演に生かしていくための様々な試みが行われた。劇場側は、スタッフのマスク・フェイスシールド・手袋の着用、検温・体調確認・手指消毒の徹底、声掛けを控える、ク

来場者には場内でのマスクの着用、ソーシャルディスタンスの確保、座席での会話・座席の移動・出演者への面会・差し入れ・プレゼント・楽屋口での出演者関係者の出待ちを控える、開演後の分散退場などをお願いした。

札幌の定期演奏会再開

なにかこみあげてくるものを感じた

札幌の演奏が再開された。

8月6日(木)「Et tu シリーズ」の新・定期演奏会。8月1日の「名曲」に続いて、再開後2度目の演奏会であるが、プログラムには「シリーズ初回として開催される」旨が書かれていた。会場ではマスク着用の要請はもちろん、コロナ対策が随所に施されていた。チケット半券への名前と電話番号の記入、検温と消毒、セルフサービスによるもぎりとプログラムの受取り、会話の自粛要請、そして終演後の分散退場等々。その中で、「せきエチケット」なる言葉は初めて耳にするものであつた。

ホールでは一人置きに着席するように指定されていて、「満席」になつたとしても千名ぐら

少人数での試みであつたが、特にトラブルなどは見受けられず、これからのイベントの開催に役立つものであつたと確信した。

会員/武藤義典



間隔をとる田中ステージマネージャー

け持たれていた9種類の打楽器が曲にうまく溶け込んでいて、ヴィブラフォンなどの心地よい金属音が耳から離れない。

辻彩奈さんのヴァイオリン協奏曲(メンデルスゾーン)はゾクゾクするほどのすばらしい演奏であつた。時にはのけぞるように、時には膝を屈するような大きな動きで陶醉するかのよう

に弾いていた。それがそのまま我々を陶醉に引き込むようであつた。鳴りやまない拍手に應えて演奏されたのが、有名なバッハの「無伴奏パルティータ第3番カヴァット」、自在にアレンジされていて、即興演奏のようであつた。

「運命」はこの人数でこんなに迫力のある大きな音が出るのかと驚いたのと同時に、楽員さんの、演奏再開とこの曲にかける思いをしっかりと感

じることができた。札幌の音も楽員さんの表情や体の動きもいつもとは確かに違つていた。観客を前にステージで演奏できる楽員さんの喜びと札幌の生演奏を心待ちにしてい

た観客の気持ちが一体になつた演奏会であつた。演奏中、なにかこみあげてくるものを感じたのは一度だけではなかつた。

会員/村山英朗

編集後記

前号(89号)は3月末に発行しましたので、5ヶ月程間があき、止むを得ず「コロナ休刊」となつてしまいました。今もなお「コロナ」の渦中にあつて、「演奏会を楽しく聴くために」と「楽員さんに興味津津」は取材しにくい状況にあります。これまた本意ではありませんが、今号(90号)は4ページの縮小版で発行することと致しました。次号(91号)も同じく縮小版で編集し、11月発行を予定しております。会員並びに札幌楽員の皆様からの投稿をお待ちしています。

(編集担当)

「札幌くらぶサロン」開催延期のお知らせ

次回(第30回)の「札幌くらぶサロン」は10月に開催する予定でしたが、「コロナの影響」により来年1月以降に延期致します。